

第1章 1995年度京都大学構内遺跡調査の概要

山中一郎 清水芳裕 富井 眞

1 調査の経過

京都大学構内のほぼ全域には、縄文から近世にいたる各時代の遺跡が埋積している。このため、京都大学埋蔵文化財研究センターは、吉田キャンパス及び附属施設の敷地内における建物新営やその他掘削工事に際して、予定地の埋蔵文化財の調査を、既知の遺跡との関係や過去の調査結果より、発掘、試掘、立合にわけて実施している。1995年度には、以下の発掘調査4件、立合調査6件、資料整理2件を実施した。

発掘調査	総合人間学部校舎新営予定地（総合人間学部構内 AR25 区）	（発掘中，図版 1-238）
	病院地区外来診察施設棟新営予定地（病院構内 AG20 区）	（発掘中，図版 1-239）
	病院地区 MRI-CT 装置棟新営予定地（病院構内 AF20 区）	（発掘中，図版 1-240）
	文学部校舎新営予定地（本部構内 AX26 区）	（第 3 章，図版 1-241）
立合調査	北部構内給排水管敷設工事（北部構内 BD34 区）	（図版 1-242）
	工学部物理系校舎新営電気設備工事（本部構内 AW29 区）	（図版 1-243）
	ベンチャービジネス・ラボラトリー棟新営予定地（本部構内 AW29 区）	（図版 1-244）
	吉田地区基幹整備その他工事（北部構内 BC32 区）	（図版 1-245）
	ヘリウム回収管敷設工事（本部構内 AY26 区）	（図版 1-246）
	旧耳鼻咽喉科病棟取り壊し工事（病院構内 AF16 区）	（図版 1-247）
資料整理	人間・環境学研究科校舎新営予定地（総合人間学部構内 AO22 区）	（第 2 章，図版 1-220）
	文学部校舎新営予定地（本部構内 AX25 区）	（第 3 章，図版 1-230）

2 調査の成果

前節で掲げた調査のうち、1995年度に整理を終えたものについて、その成果を略述する。なお、総合人間学部構内 AO22 区、本部構内 AX25・AX26 区の発掘調査については、第 2 章、第 3 章でそれぞれ詳述している。

縄文時代の遺跡 総合人間学部構内 AO22 区の東辺で、注口土器を含む後期中葉の資料が残りの良い状態で得られた。この東方 30m の地点では以前にも同様の時期の資料がまとまって採集されており、その関連が注意される。

弥生時代の遺跡 AO22 区で、前期末～中期初頭の洪水砂に覆われた水田遺構が検出された。同時に水田周辺の微地形も明らかにされ、すでに弥生時代前期の段階には自然地形を利用した完成度の高い水田造成技術が獲得されていたことがわかった。さらに、この

水田遺構の北半と南半とでは、区画のあり方、畦畔の規模、水田面の状態、といった点で著しい差異があることが確認された。初期水稻耕作の形態の多様性を示す貴重な資料を提供している。

古墳時代の遺跡 これまで中期の方形墳5基が確認されている総合人間学部構内で、新たに1基の方形墳がAO22区で検出された。同区では構内遺跡では初出となる形象埴輪も出土し、この古墳群は埴輪を有する墳墓を含んでいたことが事実となった。実態が不明瞭だった京都盆地東半部の古墳時代の様相を探るうえで、重要な成果である。

本部構内AX25・AX26区では、京都大学構内では資料がきわめて希薄な後期の遺構と遺物が発見された。完形の須恵器の蓋杯を伴う長方形の土坑2基がそれであり、当該期の埋葬行為の一端を示すもののなのかもしれない。上述した京都盆地東半部の中期古墳群のその後の展開を考える手がかりとなろう。

古代・中世の遺跡 総合人間学部構内AO22区で、奈良時代の掘立柱建物・土器溜や、多数の方形土坑が検出されたほか、構内遺跡では初めて当該期の井戸が発見された。北接するAP22区では総柱の掘立柱建物の存在が知られており、古墳時代には墓域として機能していた空間が奈良時代に生活の場へと転化したことがうかがえる。

平安時代については、総合人間学部構内でこれまでも中期の梵鐘鑄造施設の存在が確認されていたが、AO22区でも鑄造土坑が4基検出され、この種の土坑は合計6基を数えるにいった。今回の調査でも同時期の寺院の痕跡は確認できなかったことから、定着的生産によって広範な需要に応じた工房があった、という従来の解釈の妥当性がいっそう高いものとなった。

鎌倉・室町時代の活動が構内の各所で活発だったことはこれまでの調査成果からも知られていたが、本部構内AX25・AX26区では、東西方向にはしる断面V字形のものを含む大溝群が検出された。旧平安京の洛中・洛外で中世に盛んに掘削された防御用の堀の、比較的早い時期のものとみなされよう。また、総合人間学部構内AO22区では遺構の分布状態によって、西から居住域、祭祀・葬送に関わる空間、非利用空間、白色砂採取などの生産活動域、というかたちの多様な土地利用の状況をうかがい知ることのできる情報を得た。

近世の遺跡 近世の遺構については、吉田キャンパス一帯で農耕関連の柵列や小さい溝が確認されている。今回の総合人間学部構内や本部構内での調査で多数確認された遺構群も、同様の性格と推測できる柵列などである。このあたりは、応仁の乱の以後数百年にわたってのどかな田園風景が広がっていたものと思われる。